

《平成 29 年度事業計画》

本法人は平成 29 年度以下の事業を実施した。

[1] こころのバリアフリー研究会総会の開催

こころのバリアフリー活動を有効に展開するためには、様々な立場、目的で行われている活動について、会員および一般参加者が情報を交換し、可能な協力関係について模索することが重要である。この目的を達成するために、こころのバリアフリーに関する活動についての幅広い発表を求めることが総会開催の趣旨である。こころのバリアフリー研究会のテーマについては、理事会で決定される。

テーマを決定する際には、行われている活動により共通するもの、あるいは、今後有意義な活動を展開するための刺激になるものが取り上げられる。

テーマ、日時、会場などについては、こころのバリアフリー研究会の HP で公表するほか、関連の雑誌での案内掲載、関連の団体等の集会におけるパンフレットの配布などを通じて、広く周知を行う。集会には、誰でも参加が可能である。総会のプログラムや総会を行った結果についても研究会の HP で公開される。当研究会の総会では、当事者、家族、その他の支援者、精神保健従事者、精神科医など、様々な背景をもった参加者が意見、情報を交換し、こころのバリアフリー活動の展開を進めるので、極めて公益性が高い事業である。

【対象】

会員および広く一般

非会員、一般の人も、こころのバリアフリー研究会の HP での公表、関連の雑誌での案内掲載、関連の団体等の集会におけるパンフレットの配布などを通じて、情報を知ることができる。事前参加登録は、研究会事務局で受け付ける。また、当日参加も会場にて受け付ける。

【事業報告】

平成 29 年度の総会テーマとして「日本って本当に幸せな国なの？」が選ばれた。基調講演は市民公開講座として行われ、夏苺郁子氏により「越えられた壁と、越えられぬ壁」と題する講演が行われた。また、特定非営利活動法人 Light Ring の石井綾華氏がこころのバリアフリー賞受賞講演を行った。このほか、「障害領域における多様なピアサポート」「ピアサポート活動の実際と、対価を得るピアスタッフ・ピアサポーターの違い」「就労支援」「各地域におけるアンチスティグマ活動」などのシンポジウムおよび一般演題 2 題の発表が行われた。

[2] 若手精神科医へのこころのバリアフリー研修

若手精神科医に、精神科医がどのようにこころのバリアフリー活動を進めることができるかについて、こころのバリアフリー研究会総会に際して研修を行う。本研修は、特定非営利法人日本若手精神科医の会との共同事業として行われる。特定非営利法人日本若手精神科医の会には、

HP http://jypo.umin.jp/homepage/go_nyuukai.html#001 で公表されているとおり、大学や専門分野を超えて、精神科医療の専門性の確立、精神科医療に必要とされる教育研修の提供、さらに精神科医療の発展に資する研究の活動を行い、国内外の精神科医との情報交換や啓発活動を積極的に関わることに関心がある若手精神科医は、誰でも入会できる。

【事業対象】

会員および非会員

【業務委託】

特定非営利法人日本若手精神科医の会

【事業報告】

総会に際して、「相模原事件」に関する研修が行われた。研修の講師は、当事者、家族会代表者、メディア関係者、日本若手精神科医の会会員が勤めた。

[3] 第8回世界精神医学会アンチスティグマ分科会国際会議への協力

平成29年9月20～22日にコペンハーゲンで開催される、第8回世界精神医学会アンチスティグマ分科会国際会議について、プログラム委員としての協力、会員および一般に対する国際会議の周知と参加呼びかけを行う。

【対象】

広く一般

【事業報告】

第8回世界精神医学会アンチスティグマ分科会国際会議の周知を行った。

[4] 精神疾患患者のシリアスな身体的治療への説明同意手順・診療援助ガイドラインの作成

重度の精神疾患患者がシリアスな身体的治療を受ける際の診療援助のあり方については、これまでガイドラインが作成されておらず、重度の精神疾患患者のシリアスな身体的治療が十分に施行されないという結果を招いている。この問題を解決するために、こころのバリアフリー研究会の会員等によって、ガイドライン作成ワーキンググループを結成し、エキスパートのコメントをまとめる形でガイドライン素案の策定を行う。

成果物は、研究会の HP、学会、雑誌などを通じて公表される予定である。ガイドラインが策定された後、一定の期間を経て内容の見直しを行い、必要があれば改訂作業を行う。平成 28 年度に系統的文献検索を行うための方法が決定され、平成 29 年度には文献検索を行い、成果についてこころのバリアフリー研究会総会、各学会での発表、論文文化を目指す。

【対象】

広く一般

【事業報告】

活動グループに欠員が生じ、平成 29 年度には、予定されていた文献検索を行うことができなかった。

〔5〕 ピアスタッフ研修支援

リカバリーした当事者が他の当事者を支援するピアスタッフは、当事者のリカバリーを進め、精神疾患に関するスティグマを解消するために、極めて重要な役割を果たす。わが国では、これまでのところ、ピアスタッフに対する研修、ピアスタッフを受け入れるスタッフに対する研修が系統的には行われていない。ピアスタッフ研修支援では、研修内容の決定、講師の選定、研修の周知、運営に関する方法を検討する。成果物は、研究会の HP、学会、雑誌などを通じて公表される予定である。早稲田大学の岩崎香を主任研究者とする平成 28 年度厚生労働科学研究補助金（障害者政策総合研究事業）障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究（28130201）に、秋山剛が分担研究者として加わり、精神・身体障害・知的・難病・高次脳機能障害のすべての領域のピアサポートを専門性をもって行なう方を対象とした基礎研修会のモデルが平成 28 年度に作成された。平成 29 年度には、基礎研修会が試行される予定である。

【対象】

広く一般

【事業報告】

平成 29 年度には、基礎研修会が 2 回、専門研修会 1 回、フォローアップ研修会 1 回が行われた。また、「地域移行支援・地域定着のための業務」に関する質問紙案が完成された。

〔6〕 情報収集発信事業

こころのバリアフリーに関する活動をしている団体は、全国に数多く存在していると

思われるが、これまでのところ、それぞれの団体に関する情報を系統的に収集し、発信する事業が行われていない。団体の活動は、いろいろな分野に分化しており、お互いの活動に関する情報を得ることによって、活動を相互に補完しあうことが可能となる。つまり、こういった情報発信が、団体のネットワークの強化につながると考えられる。成果物は、研究会のHPなどを通じて公表される予定である。平成28年度からニュースレターの作成、会員間およびホームページを通しての情報共有、情報発信を進めている。

【対象】

広く一般

【事業報告】

平成29年度には、ニュースレターを2回発行し、会員間の情報共有、情報発信を進めた。

[7] こころのバリアフリー研究会の広報

こころのバリアフリーの活動を進めるためには、ホームページ等を通じた情報の交換、広報活動を活発に展開することが必要である。ホームページの構成については事務局が案を作成し、理事、評議員、会員、一般の利用者からのコメントを得て改訂を行う。こころのバリアフリー研究会のホームページ上の成果物閲覧について、会員・非会員での差別はない。利用者は、ホームページの構成や内容についての意見を事務局に伝達することが可能であり、必要な場合には、当該の利用者に回答を送付することも可能である。ホームページの改訂は随時行われる。

ホームページは、会員の活動、動向、イベントの予定などによって構成される予定である。会員からの情報に基づいて、記事内容を作成する。また、総会を行う際には、アナウンス、プログラムなどを掲載する。今年度は、広報をさらに効果的に進めるために研究会のロゴの選定を行う。さらに事務局がフェイスブックのアカウントを取得し、フェイスブックを使用している会員とつながることによって、会員のフェイスブックの知人に情報が伝わるように試みている。

【対象】

会員、広く一般

【事業報告】

SNSを利用して、事務局がフェイスブックページを作成し、フェイスブックを使用している会員や関連団体を中心に、研究会ならびに会員による様々な活動の情報を提供し、フェイスブックを通じてさらにその知人や関連団体にも情報が伝わるように働きかけ

た。

[8] 表彰事業。

表彰事業は、すぐれたところのバリアフリー活動を展開している個人、団体を表彰し、その成果について周知するとともに、さらにすぐれた活動の展開を奨励することを目的とする。募集は、HP 等を通じて公募し、選定委員会で厳正な選定を行う。対象者は、すぐれたところのバリアフリー活動を展開している個人、団体一般とする。選考は、直接の利害関係者が排除した選考委員会で公正に行う。本表彰事業の意義について資料をまとめ、広く応募をつのる予定である。

【対象】

広く個人、団体一般

【事業報告】

第3回こころのバリアフリー研究会賞の受賞者が、**【団体】**きらりの集い2017in名古屋実行委員会（代表者 湊野 真広様）**【個人】**おか よしこ様に決定された。